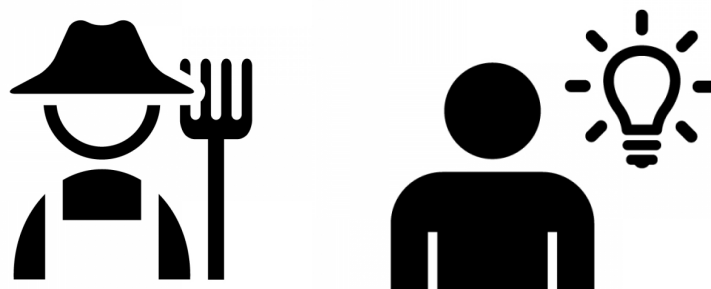


かごしまを元気にする学生政策アイデアコンテスト

若者と高齢者で作る持続可能な農業 ～LET'S ACTIVE 市near～



鹿児島県立国分高等学校2年 TEAM キリシママッチング 中島樹凜・竹之下綾音・藤井香菜子

1.はじめに

私たちの地元である霧島市は自然が豊かであることをはじめ、多くの魅力がありますが同時に人口減少や高齢化が進んでいます。特に**農業従事者の高齢化**が他の地域よりも**深刻化**しています。

そこで私たちは既存の取り組みを利用して課題解決策を提案したいと思い調査を重ねました。

その結果

「高齢者が継続できる」「若者がサポートという形で関わる」
という関係を用いて課題解決に繋がりたいと考えました。

2.調査

(1) RESASを使用した調査

- ・ 人口減少の課題に関するデータ
- ・ 出生数・死亡数 / 転入数・転出数
- ・ 年齢別推移など
- ・ 農業の課題に関するデータ
- ・ 農業経営者の平均年齢
- ・ 農業経営体の法人化

(2) 霧島市のデータを使用した調査

- ・ 「霧島市統計書」
- ・ 農家数
- ・ 年齢階層別農業従事者数及び農業従事者の平均年齢
- ・ データを活用した農業を行っている経営体

(3) 他地域の取り組み状況

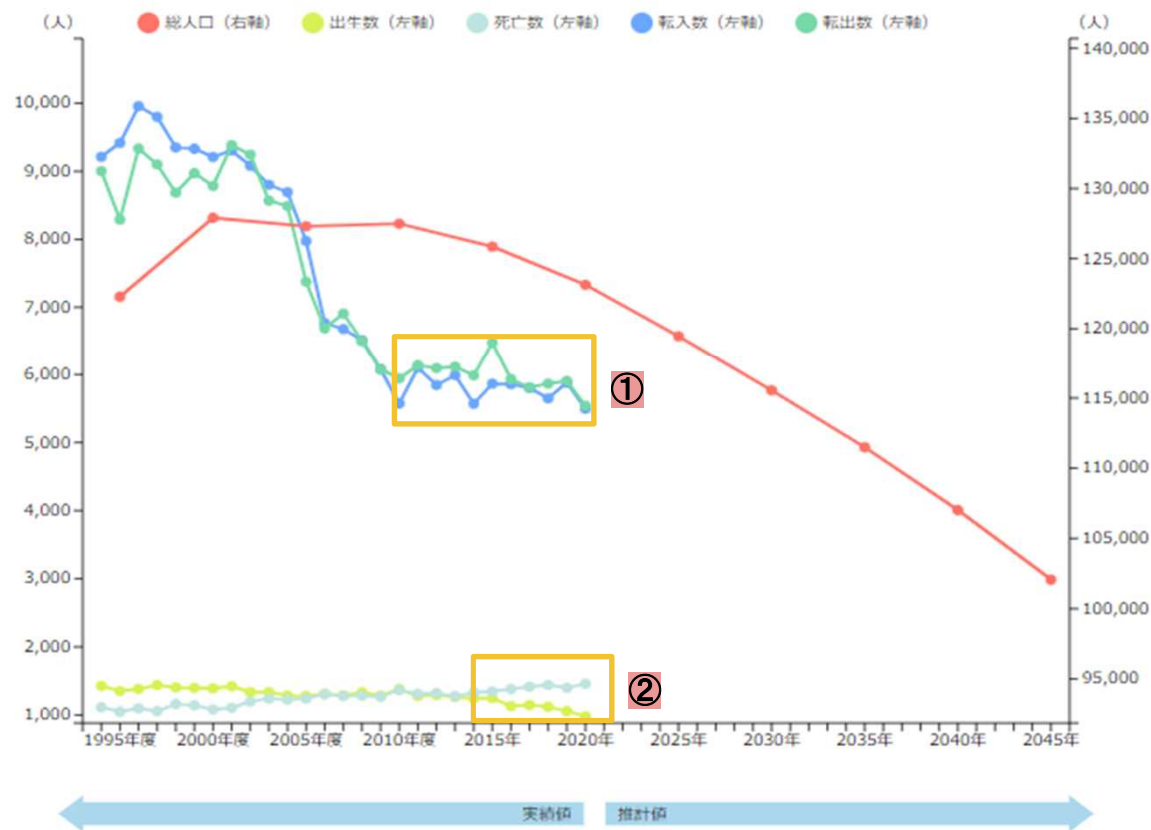
- ・ 指宿市（鹿児島県）
- ・ つくば市（茨城県）

3. 調査結果

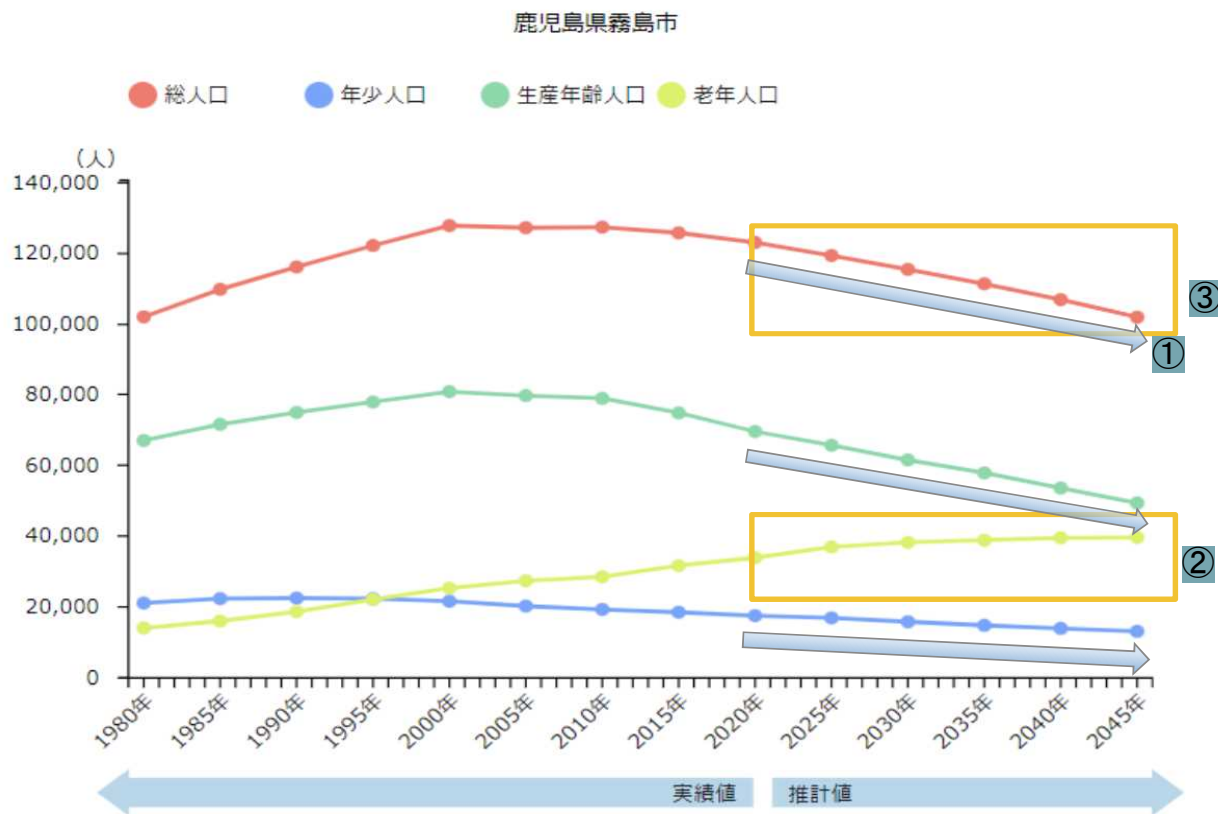
出生数・死亡数 / 転入数・転出数

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

鹿児島県霧島市



人口推移（霧島市）



RESASの人口増減・人口推移のグラフから次のことが分かりました。

① 転入数・転出数共に年々減少していて2つは近い値である。

② 近年、死亡数の増加と出生数の減少が目立って見られる。

① 現在老年人口以外は減少傾向にある。

② 推計値から今後も特に65歳以上の老年人口が増加することが考えられる。

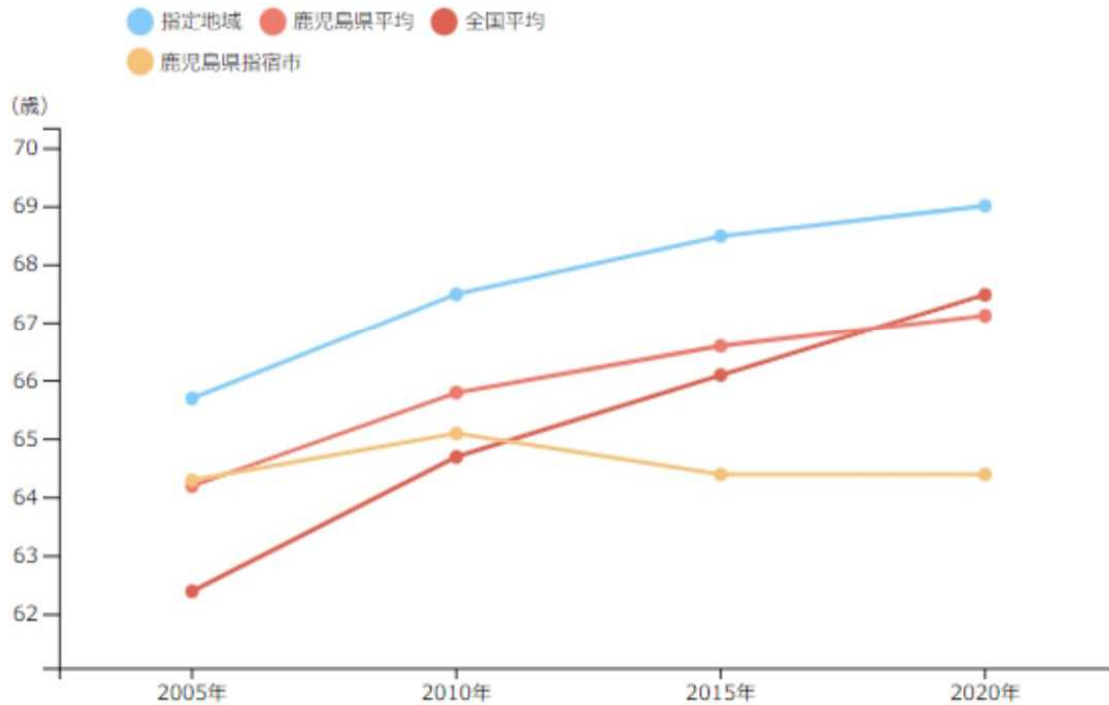
③ 総人口は今後も減少していくと予想されている。

人手不足の中でも
持続可能なシステム
が必要である！

農業経営者の平均年齢

指定地域：鹿児島県霧島市

性別：総数



霧島市の農業経営者の平均年齢に着目！

- 2020年は全国平均よりも約2歳高い。
- 2005年から常に全国平均を大きく上回りながら上昇を続けている。
- 2020年と2005年を比較してみると約3歳も上昇している。

指宿市と霧島市を比較してみると??

- 霧島市は常に上昇しているが指宿市は2010年以降、下降傾向である。
- 2020年を比較すると約4.7歳指宿市よりも霧島市の方が高い。

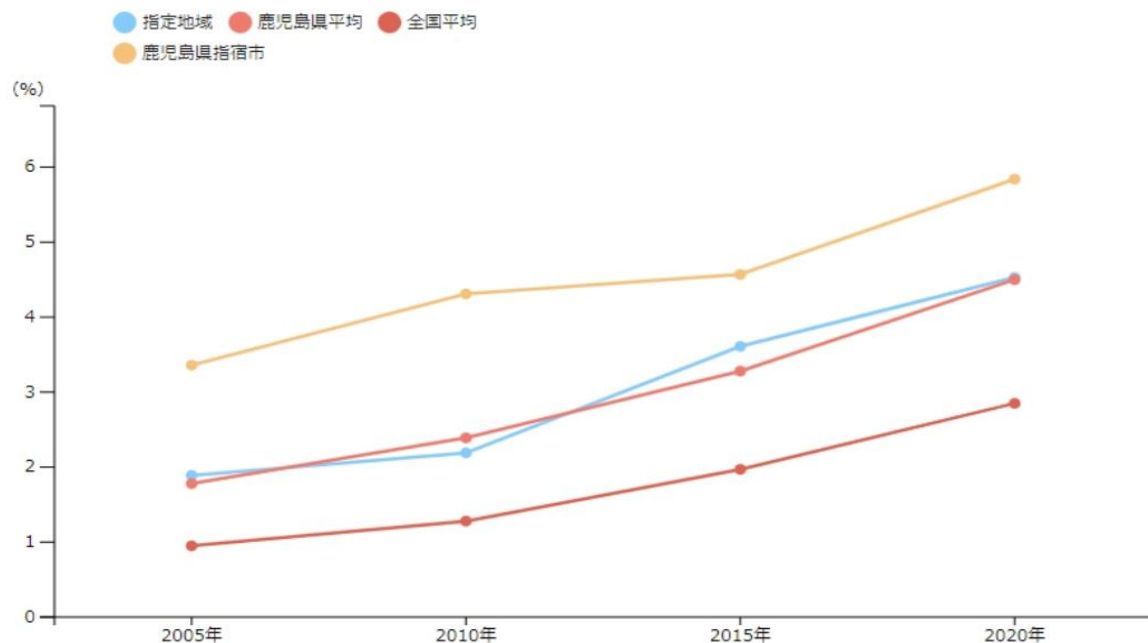
指宿市では少ない人口の中で若者を取り入れた農業や6次産業化を行っているため比較対象とした。

**高齢者に負担をかけない活躍
が必要である！**



農業経営体の法人化率

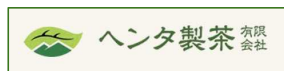
指定地域：鹿児島県霧島市



霧島市で法人化を行っている事例



農業生産法人
百姓道有元農場



ヘンタ製茶株式会社

○ 2020年の霧島市の農業経営体の法人化率は**全国平均よりも高い**。さらに、指宿市は霧島市よりも大幅に法人化が進んでいる。



○ このことから霧島市は全国でも**法人化が進んでいる**地域であるといえる。法人化のメリットとしては税負担を軽減できることや、消費者からの信頼を得られることなどが挙げられる。

【霧島市統計書】

1. 農家数

単位:戸

年次	総農家数	自給的農家数	販売農家数	専業農家数	兼業農家数	
					第1種	第2種
平成22年	5,066	2,760	2,306	1,294	222	790
平成27年	3,869	2,124	1,745	1,034	143	568
令和2年	2,894	1,661	1,233	(注1) -	(注1) -	(注1) -

注:各年2月1日現在 資料:農林業センサス



2. 年齢階層別農業従事者数及び農業従事者の平均年齢

単位:人、歳

年次	農業従事者数			平均年齢		
	計	15~64歳	65歳以上	計	男	女
平成22年	5,062	2,471	2,591	61.8	61.2	62.5
平成27年	3,635	1,695	1,940	63.6	63.4	63.9
令和2年	2,415	1,011	1,404	64.9	64.5	65.4

注:各年2月1日現在 資料:農林業センサス

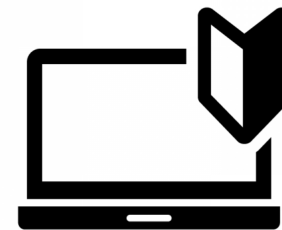


3. データを活用した農業を行っている経営体

		単位:経営体		
年次	計	データを取得して活用	データを取得・記録して活用	データを取得・分析して活用
令和2年	200	<u>125</u>	66	9

注:令和2年2月1日現在

資料:2020年農林業センサス



- 農家数は年々大きく減少している。
また、販売農家数より自給的農家数の方が多い。
 - 農業従事者数は激減しており、約6割を65歳以上が占めている。
 - 平成22年から令和2年にかけて15～64歳が半分以下になっている。
 - データを取得・分析して活用している経営体は全体の5%にも満たない。
- 本格的にスマート農業に取り組んでいる経営体は非常に少ない。

深刻な後継者不足を改善していくため
後継者として若い世代を取り入れた
持続可能な農業が必要である。

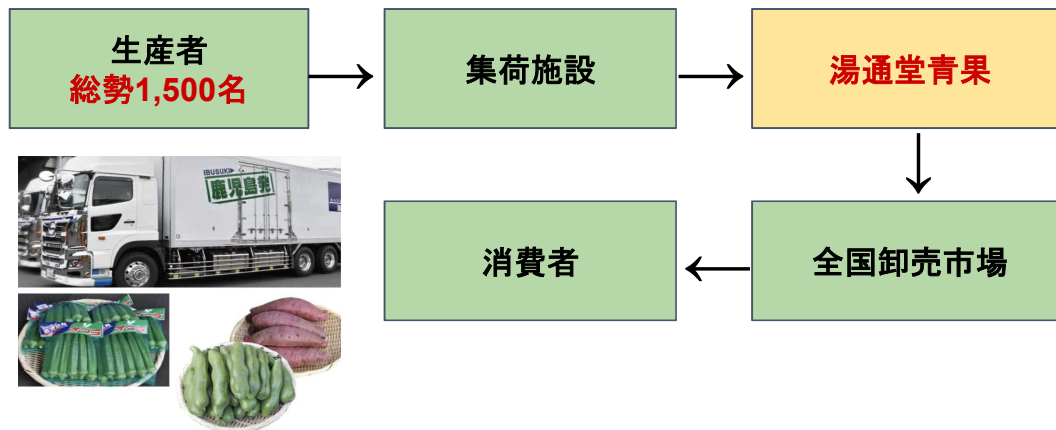


指宿市（鹿児島県）

営農や販売・物流まで手掛け
法人化を実現した
 有限会社 マルユ湯通堂青果



<商品の流れ> 南薩地域の生産者から全国の市場へ販売！



<安心・充実のフォロー体制>

- ①研修期間中も正社員として雇用
- ②栽培技術習得のための勉強会を実施
- ③農業機械の運転技術や免許の取得が可能

独自の独立支援制度を
 活用し農業研修者に
手厚いサポート！

つくば市（茨城県）

CSA（地域支援型農業）により
 夫婦2人で新規就農した
 つくば飯野農園



CSA-Community Supported Agriculture-
 つくば飯野農園

<CSAとは>

アメリカ発祥の農業経営システムで、
Community Supported Agriculture
 （地域支援型農業）という仕組み。



農作物の売買取り引きや地域の消費者が**農家の経営安定化**に協力できる
 という様々な利点によって、会員から**農業ボランティア**を募り、意見を
 聞くなどしている。



4. 考察と課題解決策

以上の分析から挙げられた課題をまとめると...

- 老年人口の増加
 - 総人口の減少
- 様々な職種における人手不足
- 農業経営者の急速な高齢化
 - 農業経営者の平均年齢が上昇し続けている
 - 農家数・農業経営体数の激減
 - 農家数・農業経営体数における生産年齢人口の大幅な減少
- 後継者不足・農業の衰退化
- スマート農業に取り組む農家が少ない
- 労働力の不足

これらの課題の解決策として次のことが挙げられます。

- スマート農業
- CSA
- 後継者公募
- 法人化

◆ 解決策のメリット

<スマート農業>

- 農作業を機械化することで、**少ない人数で行うことができる** = 人口減少の抑制に効果的
- AIやドローンなど**IT関係を得意とする若い世代も**農業に関わりやすくなる
→ 他分野の若者も関わるができる為、若い世代の農業従事者が増える可能性がある！
- 機械導入により**労働時間の大幅な削減**ができる
→ 他のことに手を回すことが可能となる

<後継者公募>

- 農家は自分達の**後継者を見つける**ことができる
- 農業を1から始める人も農家の元で後継者として始めることで**安定した知識・技術を得られる**
= **農業に対する不安の解消**
→ **移住希望者が増える可能性も！**
- 若い世代が農業に取り組むことによって**持続可能な農業を期待**できる

<CSA>

- 消費者に生産物を届けることが農業のモチベーションになる
→ **農業を継続しやすい**
- 農家が抱える経営上のリスクを消費者が共有できる
- **収入が安定**する
- 計画生産がしやすくなる

<法人化>

- **補助金制度**を利用しやすい
- **税制上の優遇措置**を受けやすい
- 経営の充実化
- **社会的信用**を得られる

5.課題解決策の全体像

法人化 × 後継者公募 × スマート農業 × CSA

→ 高齢者が継続できる・若者の農業への参入
=持続可能な農業

6.提案内容

私たちの思い 「高齢者が継続できる・若者がサポートという形で関わる」を実現したい

アプリ内での準備段階

公募に向けて

- 農場PR動画の作成
→現場の雰囲気・農業経営者の顔が見える！
- 後継者となる若者と高齢者の出会いの場を提供
 - ①農家の方がアプリ内の後継者公募に登録
 - ②若者が就農したい農家を選ぶ
 - ③マッチングした若者と高齢者で連絡をとる

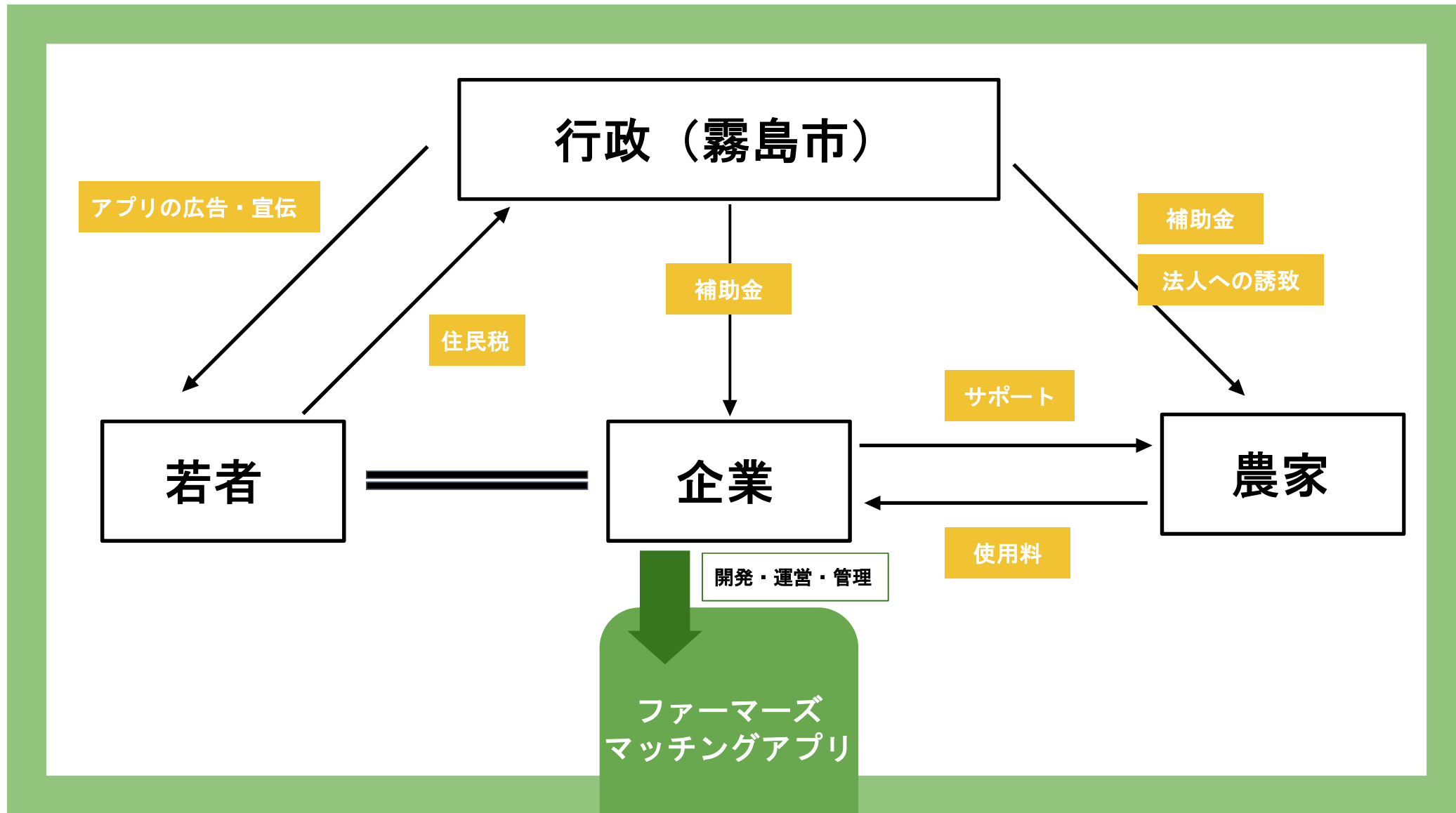
→就農・農業を共に行っていく

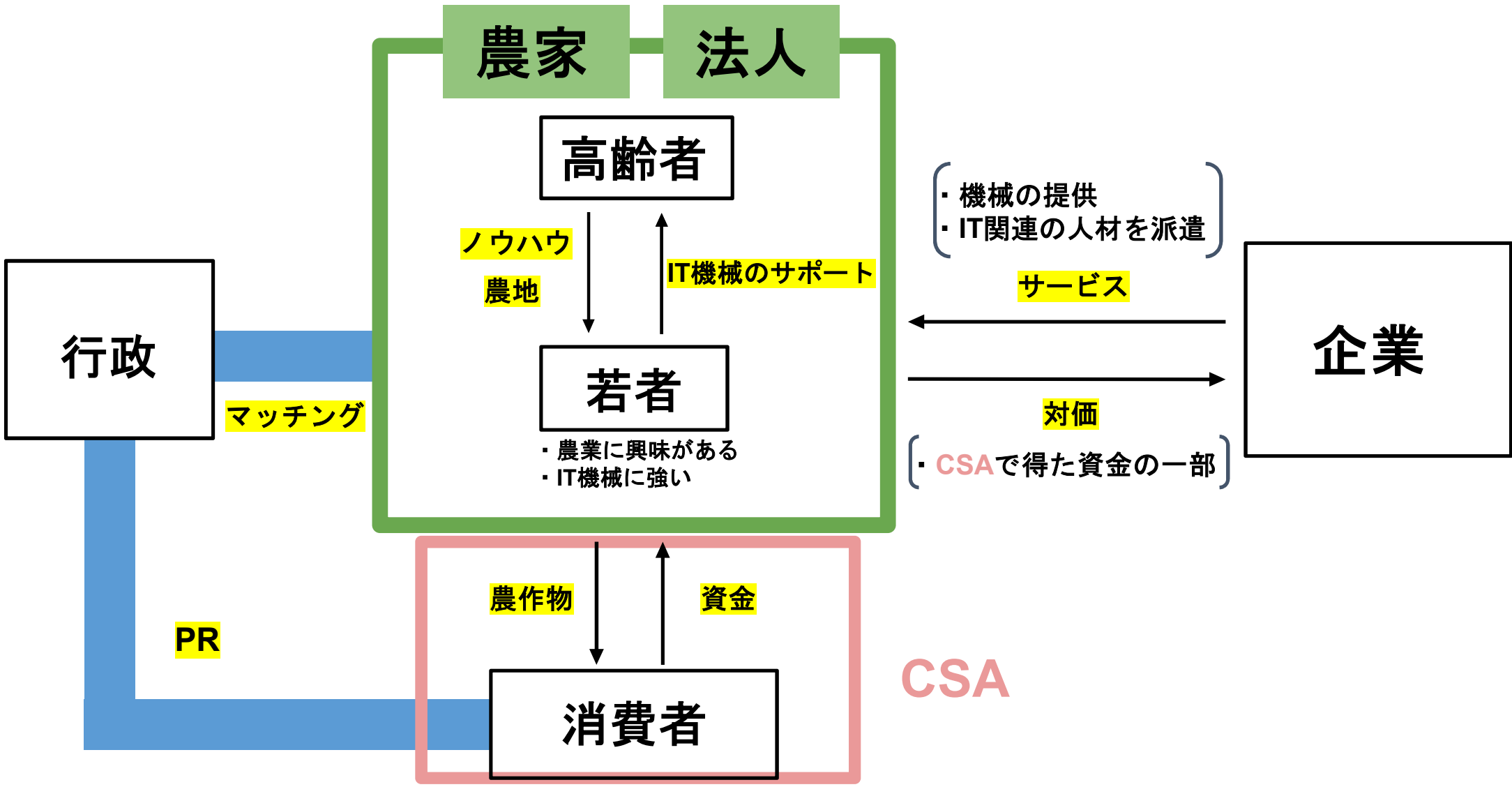
移住に向けて

- 市の移住サポート内容
- 移住者の声
- 空き家・土地情報
- 市の広報
- お試し滞在期間の紹介

を記載

→手厚いサポートでの安心感





7.結論・まとめ

「高齢者が継続できる」「若者がサポートという形で関わる」を実現するためには、アプリ内での**後継者公募**、そして行政を巻き込んだ**スマート農業×CSAシステム**を提案する必要があると考えました。

農業従事者の高齢化が進んでいる今、経験や知識の豊富な高齢者とこれからの農業を担うことが期待できる若者とがタッグを組むことで未来の農業をより明るく、持続可能なものにしていきたいです。